



100号を迎えた
広報誌に、県内から
意見や感想が
寄せられました。



平成5年4月、
会津大学開学。
わが国初のコンピュータ理工学部に
272人の一期生が入学しました。

2003
平成15年

1993
平成5年

1989
平成元年

1980
昭和55年



第186号

第126号

第100号

第48号



(平成15年6月1日発行)

これまでのイメージを変える表紙となり、
多くの皆さんから大変な反響がありました。



(平成5年6月1日発行)

本県初の単独開催となる国体を盛り上げるため、
平成7年12月まで競技に励む選手たちが表紙に。



(平成元年2月1日発行)

小学校の英語クラブの様子。
表紙に初めて外国人の人が登場しました。



(昭和55年6月1日発行)

表紙は、県内各地の元気に遊び学ぶ子どもたちの姿を
紹介するシリーズに。

表紙のデザインも
誌面構成もガラリと変わり、
ページ数も倍の16ページに
ボリュームアップ。
このリニューアルを機に、
県民の皆さんから
愛称を募集して、
広報誌のネーミングを
「うつくしま夢だより」と
しました。

これまでのタブロイド判から、
コンパクトなA4判に。
さらに、全ページが
カラーとなって、
見やすく読みやすい
誌面になりました。
開学間もない会津大学や
この2年後に開催を
控えていた
ふくしま国体の話題などが
紹介されています。

平成になって、
最初の発行が記念すべき
第100号になりました。
当時建設が進められていた
福島空港や
磐越自動車道などの
話題のほか
県民の皆さんから寄せられた
100号を迎えての
ご意見・ご感想が
掲載されています。

新しい紙面構成となり、
表紙は全面を写真で構成。
県の施設などを
読者の主婦が訪問し、
感想や意見を寄せる
「ママさんレポーター」、
毎回テーマを決めて
県民の皆さんのご意見を
募集・掲載する「県政の視点」、
地域づくりで活躍する
グループを紹介する
「私たちのまちづくり」などの
コーナーが開設されています。

●夢だよりを通じて思うことは、福島県全体の動きがよくわかるということです。いわきに住んでいると、他の地方の動きは、自ら意識し、能動的にならないとなかなか情報が入ってきません。夢だよりを読むと、県政の目指すもの、将来のビジョンがよくわかります。これからも大切に読みたいと思っています。

●その他多くのお便りが寄せられました。ありがとうございました。

いわき市
高木佳子さん(30代)

●夢だよりは、私の時をいやしてくれず。福島県民としていろいろな情報を知ることができ、とても助かります。何度も拝読しては一日日を大切に過ごしております。他県の方にも夢だよりをもっと知ってもらいたいですね。より良い誌面づくりを願います。スタッフの方々も体に気をつけてがんばってください。



いわき市
猪狩正人さん(40代)

●いつも興味ある誌面、ありがとうございます。福島県を誇りに思える広報誌づくりをしているスタッフの皆さんの苦労が目に見えます。これからも知りたい情報、そして知らなければならぬ情報を、限りある誌面で伝えてください。健康にはくれぐれも気をつけてください。



田村市
柳沼邦子さん(60代)

●今回が200号だそうでおめでとございます。地域密着の旬な話題を楽しみにしています。身近な話題が多く、いつも新たな発見があります。



会津若松市
鴨井喜子さん(50代)

200号発刊に
寄せられた県民の皆さんの声